汚されたマリッジリング
予備役製作所

汚されたマリッジリング

登場人物

佐久間　圭介

弘明、穂乃花の幼馴染。
留学したのを機に二人とは疎遠に。
父の経営する会社で働く。

桜木　弘明

穂乃花の婚約者。
穂乃花、圭介とは幼馴染。
小さいながらも会社を経営する。

藤咲　穂乃花

幼馴染だった弘明との結婚を控え幸せ絶頂。
同じく幼馴染の圭介とは弘明には言えない因縁があった。

わぁ！

すご〜い！

いよいよ結婚って感じよねー！

予定より早く仕上がったって言うから、

わーっ

わーっ

仕事帰りに引き取ってきたんだ。

穂乃花も早く見たいだろうと思ってね。

結婚指輪って

やっぱ実感が沸くわね！

婚約指輪でも

実感湧いて欲しいな～！アレだって相当頑張ったんだよ。

分かっていますよ。

ポンポン

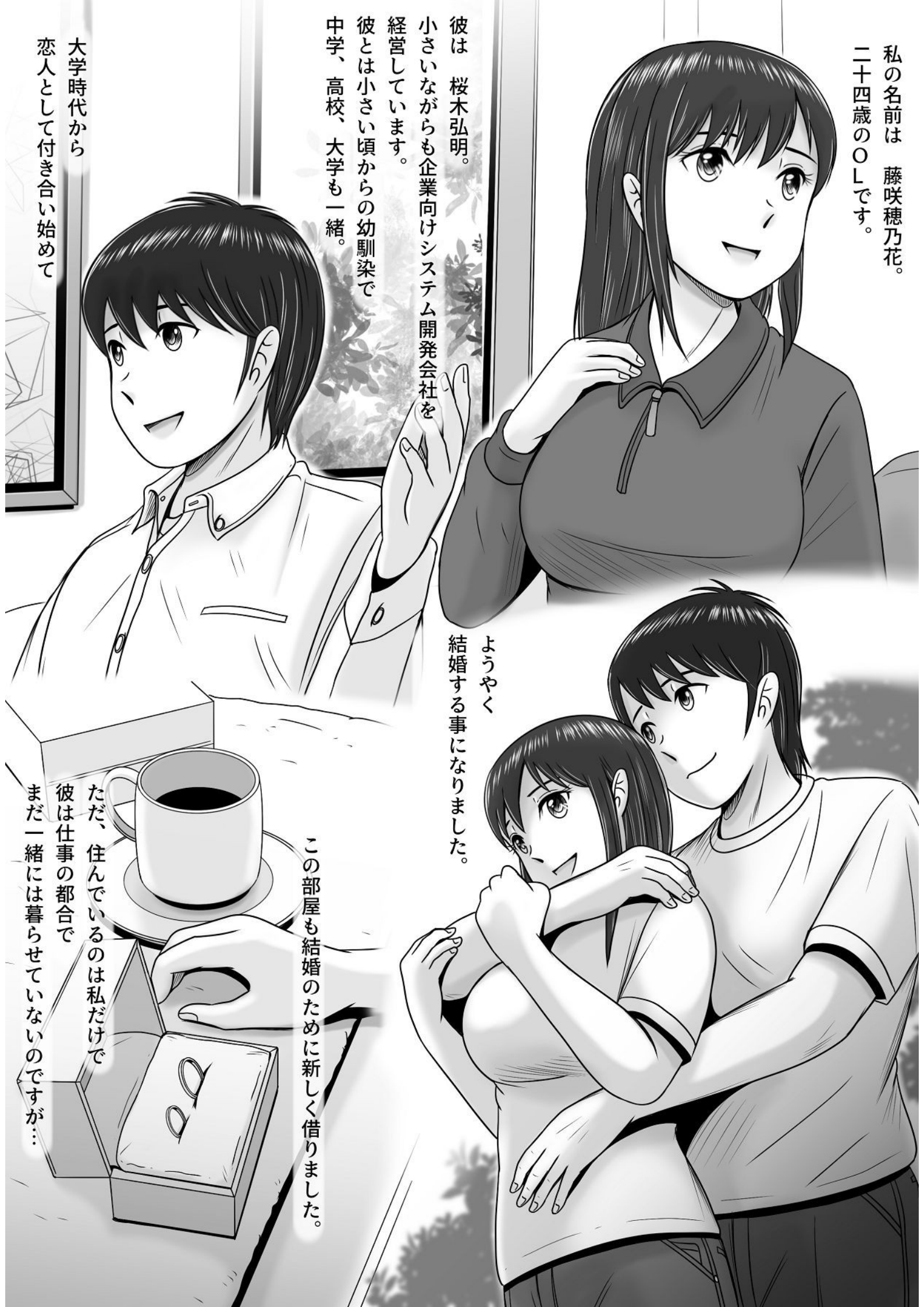
旦那様！

ところでさ、披露宴だけど

あのレストランそんなに広く無いじゃん

そうねえ、

お互いの両親と会社の上司、友達はちょっと絞らなきゃね。


私の名前は　藤咲穂乃花。
二十四歳のＯＬです。
彼は　桜木弘明。
小さいながらも企業向けシステム開発会社を
経営しています。
彼とは小さい頃からの幼馴染で
中学、高校、大学も一緒。
大学時代から
恋人として付き合い始めて
ようやく
結婚する事になりました。
この部屋も結婚のために新しく借りました。
ただ、住んでいるのは私だけで
彼は仕事の都合で
まだ一緒には暮らせていないのですが…

人数は多少絞ったとしても

やっぱり、圭介は呼ぼうと思うんだ。

圭介君？

あいつが留学してから疎遠になってるけれど、高校までは一緒だったわけだし。

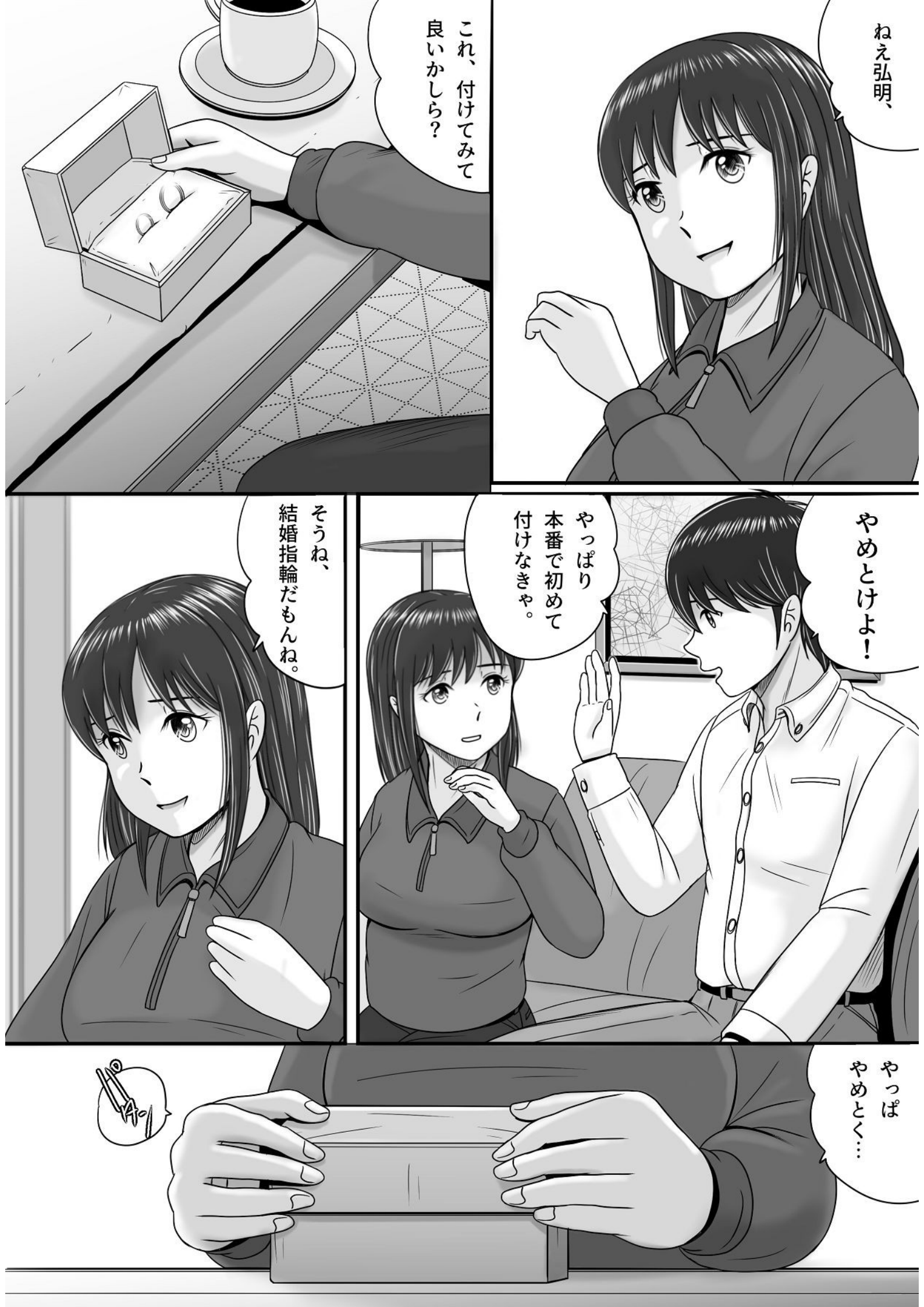
お祝いして貰いたいんだよ。

…。

そうね、来て欲しいわね。

佐久間圭介君…

佐久間圭介君は、私達二人のもう一人の幼馴染。
彼とも、中学高校が同じで三人で良く遊んでいました。
三人共に帰宅部でよく集まってはくだらない事で盛り上がったり
ゲームをして遊んでました。
まあ、時々は勉強もしてましたが…
あの頃はこの関係がずっと続くと思っていました。
そう、圭介君が留学するあの日までは…


ねえ弘明、
これ、付けてみて良いかしら？
やめとけよ！
やっぱり本番で初めて付けなきゃ。
そうね、結婚指輪だもんね。
やっぱやめとく…
パカ。

あぁ
ぁぁ
あぁ
ぁぁ
パタ
パタ
パタ
パタ
穂乃花！
いきそうだよ！
出して
良い？
パタ
パタ
パタ
パタ

パンパン
出して！
やめ
やめ
いっぱい出して！
ビクッ
ビクッ
ビクッ
あぁ
弘明、大好き！
やめ
やめ
あぁ
あぁ

ねえ弘明、

結婚したら
こういうの付けないで
できるかしら？

そうは
いかないよ。

！

うちの会社も
まだまだだし

もっと経済的に
安定しないと
家族を増やすわけには
いかないよ。

そうね。

弘明の
言う通りだわ。

でも、うちの会社も何とかなりそうなんだ！

圭介のお父さんの会社。知っているだろう？

そこが、うちのシステムを全面採用してくれそうなんだ！

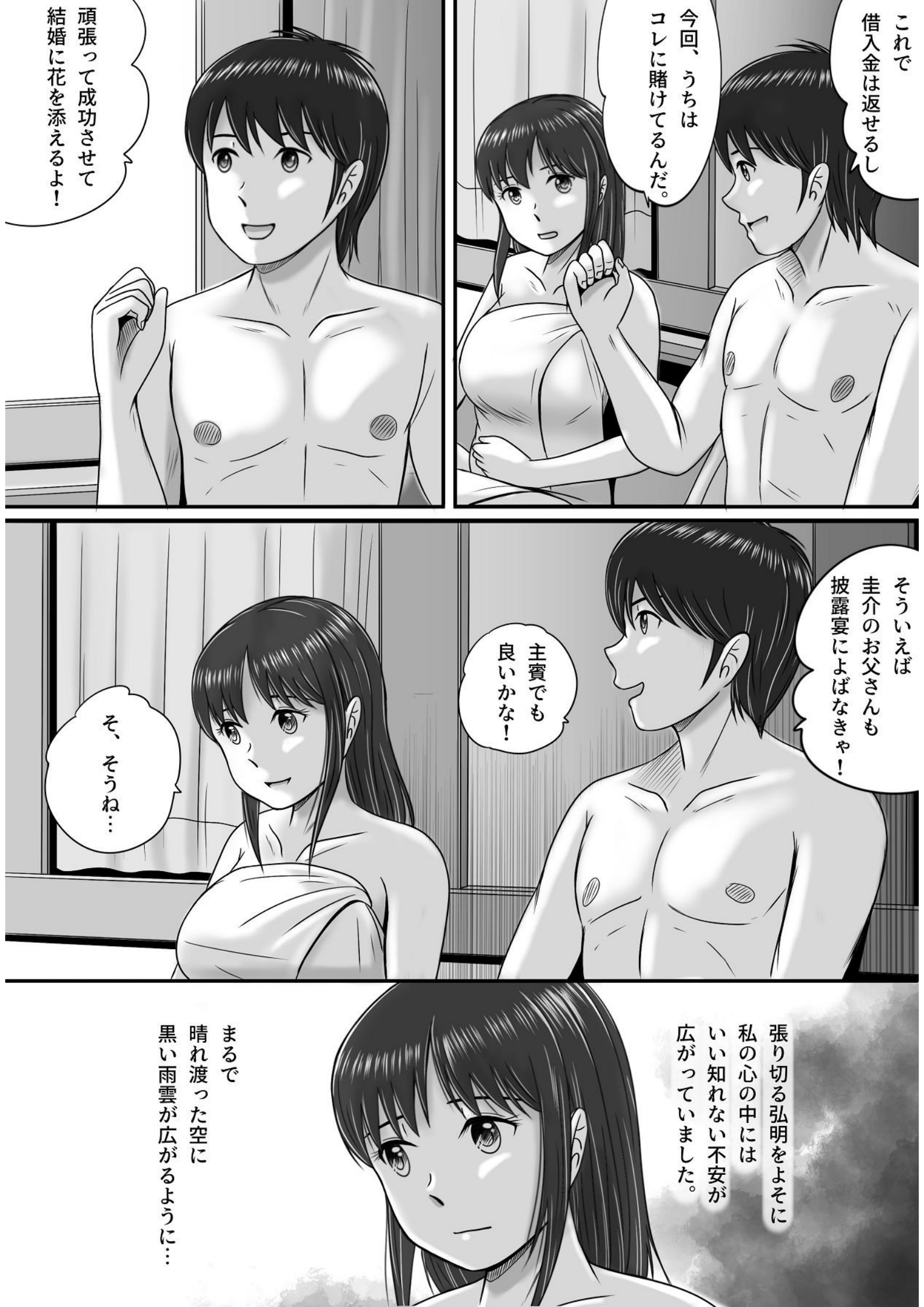
この案件が成功すれば会社も軌道に乗れる。

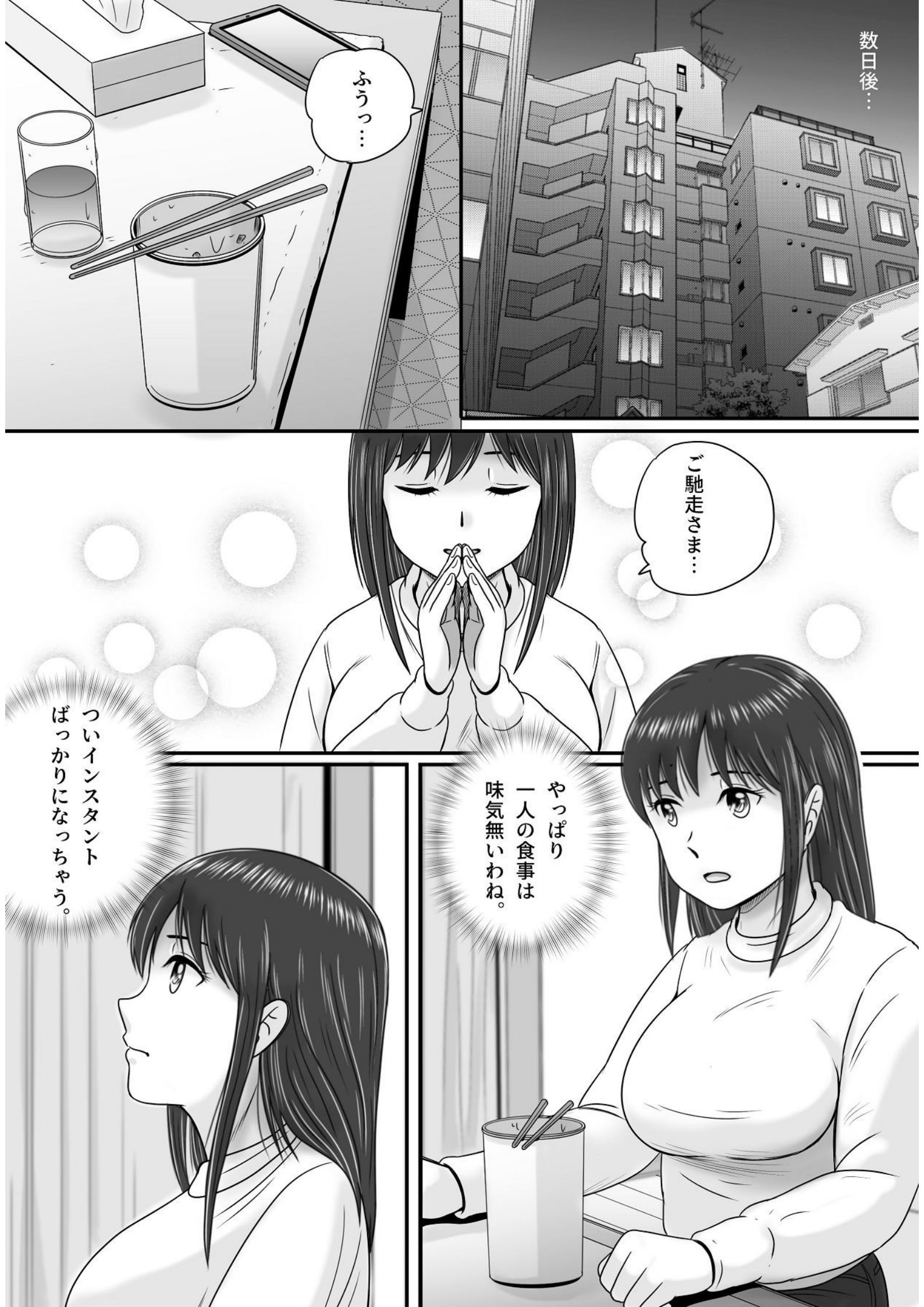
圭介君のお父さんの会社？

圭介は今回の案件には直接関係無いらしいけど

圭介のお父さんが推してくれたんだ。

圭介君のお父さんの会社…

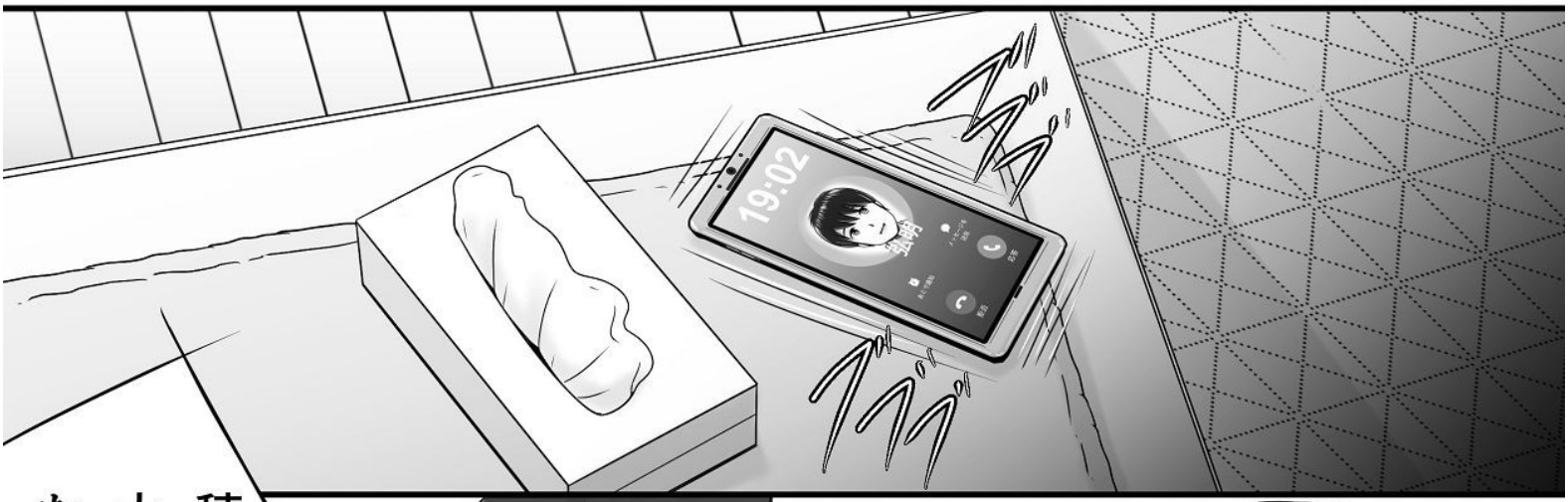

これで借入金は返せるし
今回、うちはコレに賭けてるんだ。
頑張って成功させて結婚に花を添えるよ！
そういえば圭介のお父さんも披露宴によばなきゃ！
主賓でも良いかな！
そ、そうね…
張り切る弘明をよそに私の心の中にはいい知れない不安が広がっていました。
まるで晴れ渡った空に黒い雨雲が広がるように…


数日後…
ふうっ…
ご馳走さま…
やっぱり一人の食事は味気無いわね。
ついインスタントばっかりになっちゃう。

でも、結婚したら
ちゃんと
ご飯作んなきゃね。

そうだ！

料理教室でも
通おうかしら。
確か近くに…



ああ、
弘明!?

私、料理教室に
行こうと
思うんだけど…

え？

穂乃花！
大変な事に
なったんだ！

この前話した圭介のお父さんの会社との案件がやばい事になっちゃった。
先方の担当者がシステムの採用ができないって言うんだ。致命的なバグがあるって言うんだけど
バグなんか無いはずなのに先方はちゃんと説明してくれないし採用できないの一点張りで…
どうやら社長、圭介のお父さんの一存で採用見合わせになったらしいんだよ。一度は合格した筈なのに！
全ての責任はこっちにあるって言うから納品できなければ、キャンセルだけじゃ済まなくて莫大な違約金も発生するんだ！
もしそうなったらうちの会社は最悪倒産だ！ともかくしばらくは会社に缶詰だ。
結婚式の準備は穂乃花に任せるから何とか頑張ってくれ。また連絡する。じゃあ！
と、とにかくが、頑張ってね…
ピッ

一体どうして
こんな事に…

もし弘明の会社が
倒産でもしたら
結婚式なんて
無理だわ…

まさか、
圭介君が…

もしそうなら
確かめなくちゃ。

考えたくはないけど
もし圭介君が
お父さんに働きかけて
いたなら…

ひょっとしたら
私が何とか
できるかも…

圭介君…
こんな所に呼び出してどういうつもり…
よう！
ギリ

穂乃花！
！
久しぶり！
佐久間圭介君
圭介君も久しぶり…
ロックダブルで。
なんか学生時代と雰囲気変わった…

婚約おめでとう！
あ、ありがとう。
ゴクゴク
しかし、やっぱりというか結局弘明とくっついたか。
俺が留学中によろしくやったというわけか。
全く、あいつに抜け駆けされた気分だぜ。
そんな
抜け駆けだなんて…

ね、ねえ圭介君電話でも話したけど…

弘明の会社の事

何とかならない！

電話でも言った通りあれは親父の決めた事だ。

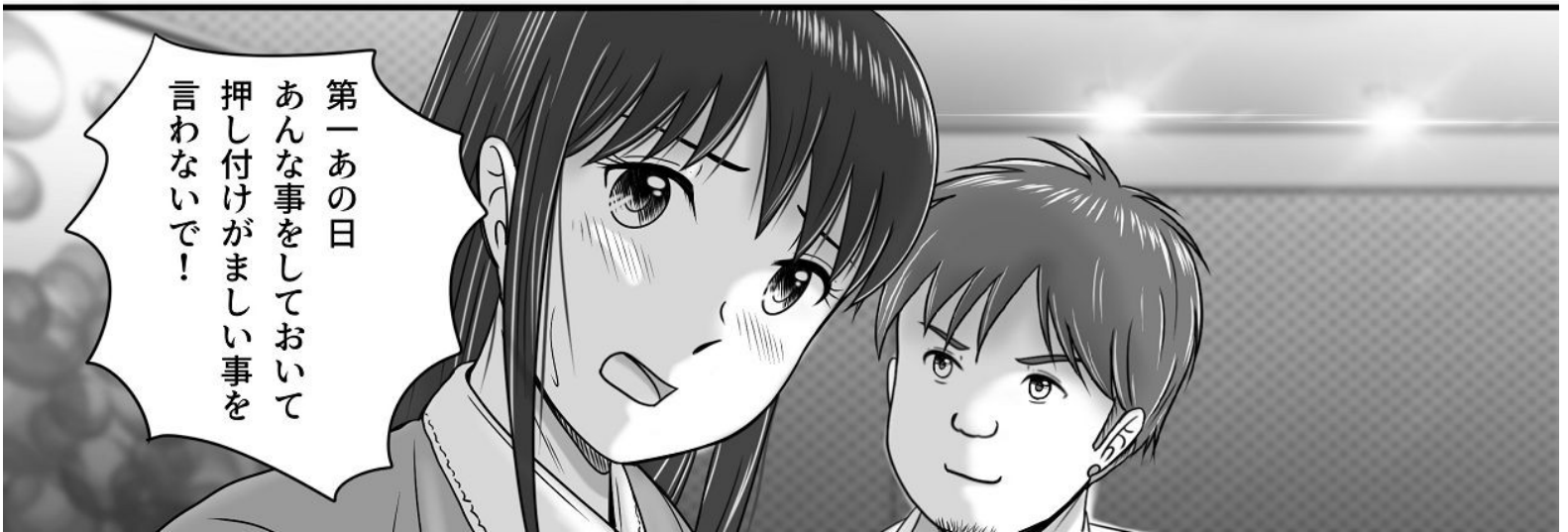
俺には関係無いね。

お前は俺が親父に手を回したと疑っているようだが。

違うんならお父さんを説得して、弘明を助けてよ！私達、幼馴染でしょ！

なあ穂乃花。

俺はな、海外で揉まれて成長して戻って来たんだ。
随分と嫌な想いもしたが今では親父の会社を支えられるくらいには成長したと思っている。
それもこれもお前に俺を認めて欲しかったからだ。
俺を認めて俺のものになって欲しいからだ。



別にこの期に及んで弘明との間に割って入ろうなんて思っていないさ。

それにあの日の事は俺も素直に反省している。

本当にそうなの？

ただね、

俺はやっぱり腑に落ちないんだよ。

なぜ、俺でなくて弘明なのかってね。

そう、あの日の事…それは高校卒業を控えたある春の日…

その日は
留学を控えた圭介君の
送別会を開くため
いつもの三人で集まるはず
でした。

ところが、弘明が
体調を崩したため
私と圭介君だけに
なりました。

圭介君はその日
私に告白をしてきました。

そして、私の返事を聞かないうちに…

ドン!

圭介君！
何すんの！

お願い！
やめて！

突然襲いかかってきました。
きっと、留学が迫っていたので
凄く焦っていたのだと
今ならわかります。

穂乃花！
俺はずっとお前が
好きだった！

俺のものに
なってくれ！

嫌よ！

しかし、怖かった私は、
思わず言ってはいけない事を
言ってしまいました。

私はあなたなんかより
弘明がずっといいわ！！

何で俺でなくて弘明なんだ！

圭介君止めて！

圭介君はその言葉に激昂し私の下着を剥ぎ取り…

でもどうにかすんでのところで圭介君を押しのける事ができました。

圭介君はすっかりしょげて、帰って行きました。

幼馴染の私達が疎遠になってしまったのはそんな事があったからなのです。

もちろん
突然襲いかかってきた
圭介君が悪いに
決まっています。

たとえ、留学前に
思いを
遂げたかったとしても
許される事では
ありません。

でも
私ももう少し冷静に
話を聞いてあげれば
後悔はしているのです。

なあ穂乃花。

あの日の話は
弘明にはしていないのだろう？

結婚前に
聞きたい話じゃ
無いよな？

ただでさえ
会社が大変なのに。

…。

俺は決して弘明には言わないよ。幼馴染だからね。

それに

弘明の会社の危機はビジネスの問題だ。

ビジネスの問題解決にはギブアンドテイクが必須だ。今の俺ならそれが出来る。

上に部屋をとってある。

聡明な穂乃花なら意味はわかるよな。

シャー

どうしよう…
結局圭介君と部屋に来ちゃった…

いくら
弘明の為とはいえ

やっぱりこんな事
許されるはず無いわ。

私達、
幼馴染なんだから
圭介君も
本当は弘明を助けたい
はず…

あの日の事だって
もう一度ちゃんと話せば
分かってくれるはず…
だから…

ねえ
圭介君…

私やっぱり…

！

圭介君！
穂乃花
遅いじゃないか。
穂乃花を抱きたくて
もうさっきから
治らないぜ。
スコ
スコ
ちょっと
少しは隠してよ！

何言ってんだ。
ここまで付いてきて
お前だって
早く見たいんじゃないか？

…。

ギギ

ああ、悪い。

もっと近くで
見たいよな。

ほれ、
そこにしゃがんで。

よく見ていいぞ。

ペタ
どうだ？立派だろう。
じゃあ気持ち良くしてくれるかな？
気持ち良く…
そ、そうね。一度出してしまえば
落ち着いて話を聞いてくれるかも…
ムクッ
確か賢者何とかって言うやつ…

弘明のと大きさとか
随分と違うけど…
頑張れば
きっとすぐだわ…
弘明だって、
こうやってしごけば
すぐに…
手コキも
良いが、
口でも
頼むよ。
く、
口で…

まあ
その方が
早いかも…

なかなか上手いじゃないか。あいつに鍛えられたか？
じゃあ次はしゃぶってくれ。
大きくて全部は入らない…
でも…

頑張れば
きっとすぐに…
もう少し、
もう少し、
おー
気持ちいい！
穂乃花、
フェラ上手いなあ
でもな…

ドン！
ズグッ
！
そんなんじゃ全然いけないよ！
ガタ
ガタ
もっと、喉奥まで咥えなきゃ！
ガタ
んっ
ガタ
ガタ
んっ
ガタ

け、圭介君…

そういうのちょっと無理…

はぁ

はぁ

穂乃花、お前フェラで誤魔化そうと思っただろう。

そんなに簡単に俺はいかないよ。

み、見透かされてる！

！

ちょっと圭介君！

お願い！

それは…それだけは…

何だよ、ちんこは良くて唇はダメってか？

ごめんなさい、

それだけはやっぱり…弘明に悪いから…

まあ、いいや。

じゃあ、タオル取って全部見せてくれよ。

今度は変な言い訳無しな。

…。

ねえ
圭介君、

この部屋
もう少し
暗くできない？

なに
言ってんだ。

言い訳無しって
言ったろう。

それに穂乃花は
俺のをじっくり
見たじゃないか。

暗くしちゃ
不公平だろうが。

…。

スッ

おー！
穂乃花、
お前、めっちゃエロい体してんな。
こんな明るい所で…恥ずかしい…

胸も
高校時代から
さらにデカく
なったんじゃないか？

やっぱ、弘明に
揉まれて成長したのか？

何だか
妬けるなあ。

んんっ…

めっちゃ
ふわふわじゃん。

タプ

タプ

あっ
んんっ
それに
弾力もすげえなぁ。
乳首も
でっかくなった
んじゃないのか？
ここも弘明に
吸われて
成長したのか？

んくっ
クリッ
クリッ
それに感度も良さそうじゃん
ぎゅ
ぎゅ
あぁ
おほ！よく伸びる！

もう
カチカチ
コリコリじゃん。
カチ
カチ
コリコリ
俺も
しゃぶって
成長に
協力してやる。
ビク
あ
ちゅう

け、圭介君…
そんなに吸っちゃ…
おっと、こっちも
成長させなきゃな。
下の方は
どうかな？

おっ！
こっちも成長してんな！
あっ
シュリシュリ
クチョ
ぐっ
あっ
もう濡れてんぞ。
クチョ
クチョ
あっ
あっ

あっ
グチュ
グチュ
あぁっ
んんっ
んんっ
グチュ
グチュ
あっ
トロッ
んん
んん
グチュ
グチュ

もう びしょびしょ じゃねえか。

お前も 早くしたいんだろう？

そ、そんな事 無いわ！

じゃあ、 確かめてみようか。

ベッド 行こうぜ。

圭介君
あのね…
言い訳無しって
言ったろう！
それに
隠すなよ！
まさか
グロマンで
恥ずかしいとか？
ぱっ
ぱっ
おー！

なんだ穂乃花！

お前、まんこめっちゃ綺麗じゃん。

け、圭介君…

弘明のヤツ、あんま使ってねえのか？もったい！

それにもう雫が溢れて尻まで垂れてるじゃん。

あんまり見ないで…

何言ってんだ。

あの日
見られなかったんだ。
じっくり奥まで見せてもらう。

ぱっ

あっ!

クリの感度は
どうかな？

なかなか良さそうじゃん。

あぁ

もう、コリコリだし。

あぁ

中は、どうかな？

おお、すんなりと！

あぁ

入り口はともかく中はキツキツじゃねえか。

指、持ってかれそうだぞ！

ズボ

ズボ

圭介君！

いきなり激しすぎ！

ズボ

ズボ

こりゃ名器の予感！

ワキ

ワキ

あぁ

あ

どれ
お味は？
ぐっあ
圭介君の舌、
別の生き物
みたい！
ぴちゃ
ぱぴぷ
あぁ
私の気持ちいい
所を…
あぁ

ああ、ダメ！
気持ちいい！
いっちゃいそう！
あっ
あっ
あっ
ゾクッ
ゾクッ
あー
いく、いく、いく！

へへっ！
ハァ
ハァ
い、いっちゃた…

なんだ
もういったのか？

まあ、俺のクンニで
いかなかった女は
居ないけどな。

じゃあ、次は
俺がいかせて
もらおうかな。

…。

さっきから
我慢汁ドバドバ。

どうしよう…
このままじゃ…

何とか圭介君を
説得して…

俺も
すぐいきそうだ。

ねえ
圭介君…

やっぱり、
これ以上は
やめておこうよ。

何だったら、
私が手か口で…
それでいいでしょ？

何言ってんだ！

お前のフェラじゃ
何年経っても
いけないよ。

親父にはちゃんと
口を聞いてやるし
あの日の事は
弘明には言わない。
それでいいよな？

ちょっと！
圭介君！

ゴ、ゴムは!?

おいおい
ここはラブホ
じゃないんだぜ。

そんなもの
あるわけ無いだろう。

心配するな、
ちゃんと外に
出すからよ！

ちょっと！

ズッ"ッ"ッ"

ダメ！

ああ
ん
ズッ
ズッ
ああ！
い、入れられちゃった…
弘明…！
うわ！
すげえキッツイ！

えっ！
何これ！
ッ
お腹がグッと押されるみたい。
どうだ穂乃花。
弘明とはだいぶ感じが違うだろう？
あいつとは大きさも形も違うからな。
そ、それでこんなに…

だからな穂乃花。
あっ
急に動くときついだろう。
しばらくこのままで少しならそうか。
お前のまんこが俺の形に変わるまでな。
あっ
あっ
圭介君の形に…

あっ

私、
圭介君形に
変えられちゃうの？

ポッ

そ、そんなの
嫌！

そろそろ
いいだろう。

動くぞ。

圭介君…

ズズズ
ズズズ
ズズズ
ズズズ
あ
あ

私は弘明と結婚するの！
圭介君の形になんかなりたく無い！
あぁ
あぁ
パチ
パチ
パチ
あっ
パチ
パチ
でも！

あっ
何これ！
弘明と…
パチ
パチ
パチ
パチ
全然違う！
ズッズッ
良い声
出てきたな。
穂乃花、
お前、奥好きなのか？
ズッズッ
じゃあ
奥を重点的に…
んあっ

ほら！
これでどうだ！
遠慮せずに
好きなだけいけ！
ああ！ダメ！
なんかこれ
凄い！

ビクッ
ビクッ
ビクッ

ん
ん
ぐちゅ
ぐちゅ
ぐちゅ
あ
あ
ぐちゅ
ぐちゅ
ぐちゅ

いやあ
めっちゃ
良かったぜ。
ようやく
あの日の思いを
遂げられたってわけだ。
ヒクッ
ヒクッ
穂乃花、
はあ
はあ
お前も
良かったろう？
何だ、
返事もできないほど
良かったか？
はあ
はあ
ぐすっ

ピッ

ようやく先方の社長、
圭介のお父さんと
話せる事になったんだ。
今まで
全く会ってくれなかったんだけど、
熱意が伝わったのかな！

最後のチャンス、直接説得してどうにか契約まで持ち込んでみるよ！

良かったね。

ああ！結果が出たら連絡するよ！じゃあ！

待っているわ。頑張ってね。

良かった…

ピッ

圭介君…約束を守ってくれた見たいね…

ストッ

でも…

ハァ…

その為に
圭介君に抱かれたなんて
絶対に言えない。

あの日は、
あそこが痛いと言って
すぐに帰ったけど…

もし、あのまま
何度も抱かれていたら
私、どうなって
いたのかしら…

ちゅ

ひょっとしたら
本当に
圭介君の形に…

ん

あんなの初めてだった…

あっ

あっ

弘明は、あんな丁寧じゃ無いし…大きさだって…

んん

あっ

あっ

ひょっとしてもう、形が変わってたら…

ドッ

ドッ

!

結構
広い部屋じゃないか、
家賃高いだろう。
弘明頑張ったな。

圭介君、
どうして此処が？

どうしてって

披露宴の
招待状に
書いてあったぜ。

弘明、
圭介君に
招待状を…

ああ、そうね…

お父さんに
話してくれた
みたいね。

何だ
知ってるのか。

最終的にには
親父の判断だがね。

それでも
一応お礼を言っておくわ。

それはそうと
せっかく招待してくれたんだが
俺、行けそうにないんだ。

大事な顧客との
接待でな。
その日は出張なんだ。

そうなんだ、
残念ね…

良かった、
圭介君
来ないんだ…

それで、
代わりと言っては何だが
ご祝儀だけでもと
持ってきた。

ブツブツ

いずれ、
ちゃんとお祝いを
してやるから
今日の所はな。

特別なお祝いも
入れておいたから、
開けて確認して
くれないか？

け、圭介君！
何これ！
こんな物
いつの間に！
！

んっ
んぐっ
ちょっと！
圭介君！

いきなりやめてよ！
お前、俺が来る前オナってたろう？
え！どうして！
やっぱりな！
入って来た時から顔、真っ赤だったもんな。
俺との事を思い出してたのか？

それにあの日、まんこが痛くなったって嘘だろう。
あんなにびしょびしょで痛くなるわけ無いよな。
あのまま、俺に抱かれて続けたら、
弘明じゃ満足出来なくなるって怖くなったんじゃないか？
そんな事無いわ！私は弘明を…
愛してるから大丈夫ってか？
また見透かされてる…
そうならない自信があるなら、
試してみようか？
…。

ぱぱ
ぱぱ
ぱぱ

やだ…
私、また
圭介君の言いなりに
こんな事…
ちゃんと
断らなきゃ
いけないのに…
穂乃花、
やっぱりお前
オナってたな。

なにしろ
お前のまんこ

ヨダレ垂らして
おねだりしてるからな。

ちょ、ちょっと！

け、圭介君！

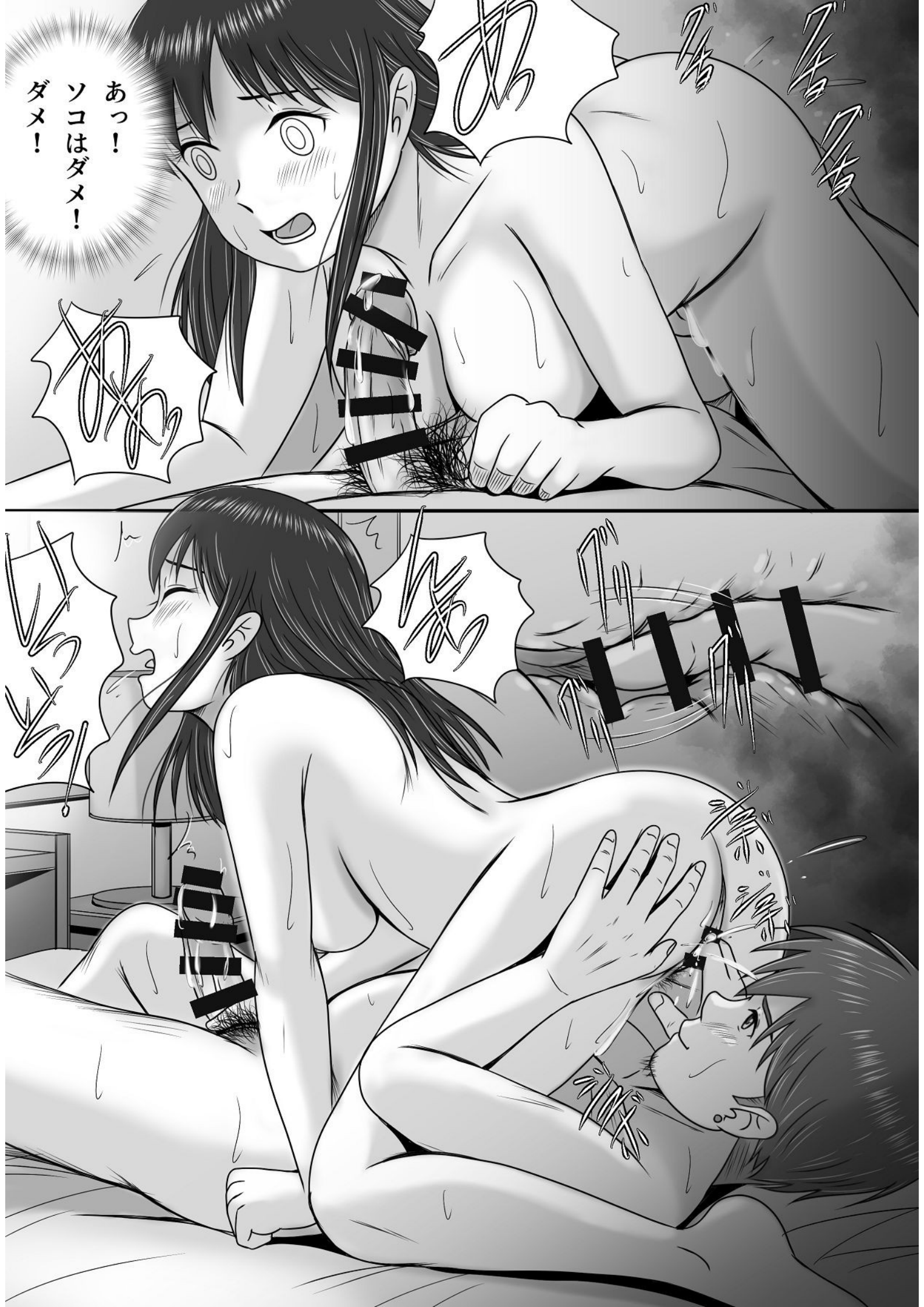
クチュクチュ

なんだ穂乃花、

指一本じゃ足りないってか？

ズブズブ

あっ


あっ！
ソコはダメ！
ダメ！
あ
あぁっ
ぐぐぐぐ
ぐぐぐぐ
ぐぐぐぐ

はぁ
はぁ
い、いっちゃった。
指だけじゃ物足りないだろう。
だったら自分で入れてみろよ。
じ、自分で…
確かに指だけじゃ…

あれっ！
私、なんだって
自分で圭介君のを…

ズブッ

私、
どうしちゃった？

んんっ

ズブブブブ

んんっ

んあっ

随分と
素直じゃないか？

俺のちんこ
気に入ったか？

あっ
あっ
あっ
別に、圭介のを
気に入ったとか
そんなんじゃ無いけど…
でも…
ワキ
ワキ
ワキ
ワキ
まあまあ
今日もガッツリ
咥え込んで…
じゃあ
今度は
自分で
動いてみろよ。

あっ
あん
でも！
あっ
あっ
勝手に
腰が動いちゃう！
あっ
あっ
ズチュ
ズチュ
ズチュ
ズチュ

圭介君のおちんちん気持ちいい！
おちんちん気持ちいい！

ま、また
いっちゃった…
まったく
穂乃花は
いきやすいなぁ。
じゃあ
今度は…

後ろから
たっぷりとな！

ちょっと！
圭介君！

今、
いったばかりだから！

ダメ！
これ以上
されちゃうと…
私…

ダメダメ！

ぬ！

ズボッ

俺さあ！
あぁ
あぁ
いきたてまんこがん突きするの好きなんだよね！
あぁ
あぁ
バチュ
バチュ
バチュ
バチュ

け、圭介君！
そんなに突いちゃ！
ズボ
ズボ
ズボ
凄え！
めっちゃ締まる！締まる！

穂乃花！まだまだこれからだぜ！
ほら！ケツ上げろ！
ごめん…
ごめん…
弘明…

私、また…
ばちゅ
ばちゅ
ばちゅ
ばちゅ
あっ
あっ
おら！穂乃花！イケイケ！
いっちゃう！
ばこ
ばこ
ばこ
ばこ

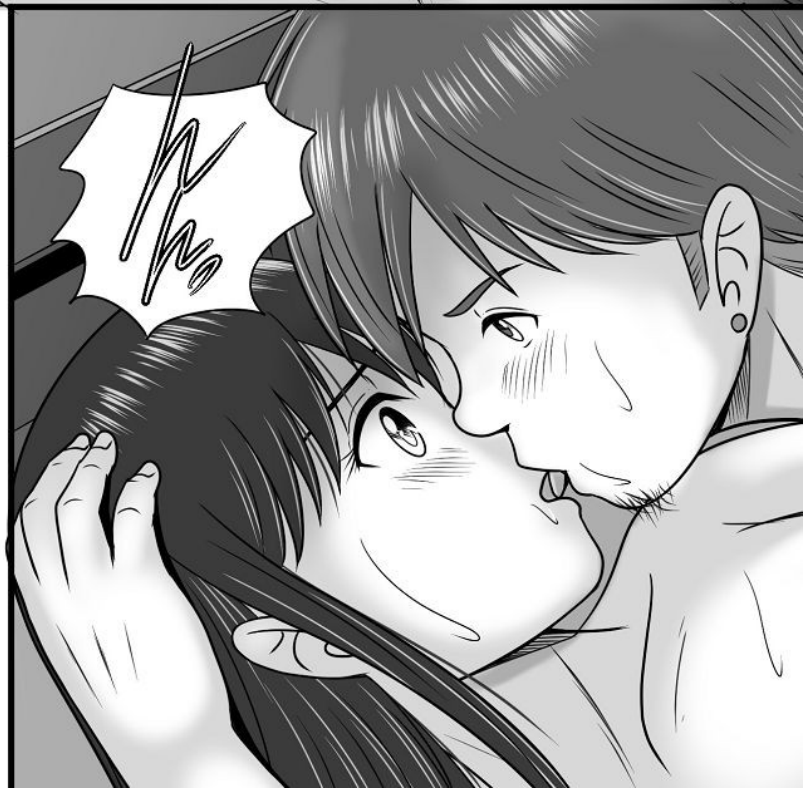
私…
いったい
どうしちゃったの…
穂乃花、
凄いな。
さっきから
いきっぱなし
じゃねえか！

圭介君！
お願い！
ちょっと休ませて！

ちょ、
ちょっと圭介君！
聞いて！

ビクッ

ガッ
ガッ
ガッ



ちょっとダメ！
今そこ
敏感だから！
ダメ！

ズボズボ
ズボズボ

うっ！
やべっ！
出る！

あぁ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
あぁ
ピッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
あぁ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
あぁ
ブブッ
19:02

えっ！

弘明！

19:02

弘明！
どうしたの？

ああ！
穂乃花！
やったよ！

社長の一存で
予定通り契約
してくれる事に
なったんだ！

どうやら圭介が
お父さんを説得して
くれたみたいなんだ！

そうなの
圭介君が…

ツ
プッ

穂乃花？どうした？大丈夫？
ごめん、ちょっと保留にするわね。
ピッ
ピッ
ピッ
弘明から朗報だろ？
くっ…
圭介君！
何するのよ！

圭介君
お願い！
今はやめて！

とにかく
弘明とちゃんと
話させて！

後でなんでも
するから
お願い！

ドン

なんでもねえ…

弘明ごめん！

穂乃花？
大丈夫？
誰かいるの？

驚いて
ちょっと
むせただけ…

ところで、今回の契約
だけじゃないんだ。
圭介のお父さん、
うちの会社に投資までしてくれるって！

急に態度が変わったのには驚いたけど
これで、借入金は全部返済できるし、新しい事業も始められる。

ホント圭介には感謝だよ！

そ、そうね。

明日には行けるから詳しくはその時に、じゃあ！

うん、じゃあね。

良かった…

良かったな。じゃあ…

…。

あ

あ

あ

ギシ ギシ

ああ！
どうして！
あぁっ
ズチュ
いやぁ
最高だな！
人妻穂乃花！
あぁっ
あん
あっ
ズチュ
ズチュ
ズチュ
結婚式まで
しないはず
だったのに…
ズチュ
ズチュ
穂乃花の花嫁姿
見られないのは残念だが
コレはコレで
最高だぜ！

なあ穂乃花、もうすっかり俺の形じゃないか？
あっ
あっ
ズチュ
ズチュ
ズチュ
弘明のモノだってか？
じゃあ確認してみようか？
そ、そんなわけ無いわ！私は…
あっ
あっ
ズチュ
ズチュ
え?!

穂乃花、見てみろよ！
お前のまんここんなにガッツリ咥え込んでるじゃねえか！
そういえばさっきから何か変…
お腹が凄く熱くて体が圭介君を求めてるみたい…
もう、形が変わってしまったの！
ギュッ

ぐっ
ほら、よくわかったろう！
ぐっ
ぐっ
ぐっ

ばちゅ
ばちゅ
穂乃花は
もう弘明とやっても
満足出来ない
体になったんだ。
どうしても
お前の体が
俺の形を欲しがって
しまうのさ！
あっ
圭介君…。
んぐっ
ばちゅ
ばちゅ
ばちゅ
確かに、
最近思い出すのは
圭介君との
あの日の事ばかり…

ズッ
ズッズッ
まさか、体の形だけじゃなく心の形まで！
それ！いけいけ！
ぁぁっ

だ、だめ！
中は
ダメ！
ズコ
ズコ
弘明とも
まだなの！
初めては弘明に
くれてやったんだ！
だから俺は
穂乃花の初中を
いただく！
ズイ
ズイ
ズリ
ズリ
ズリ
ズリ
圭介君！
お願い！
それだけは
やめて！

圭介君！聞いて！

中はダメなの！お願いやめて！

だめ！もっと強く拒絶しなきゃ！

でもどうして？できない！

あぁぁ
あぁぁ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ

ドンッ
ドンッ
ドンッ
ドンッ
ドンッ
ドンッ
中に…
出されてちゃった…
ドロッ

穂乃花、中出しは最高だろ！

はぁはぁ

弘明…

ごめん…

今日はまだいけるよな？

あっ

その日はそれから…

あっ

圭介君は何度も私を犯しました。

そして、何度も私の中に射精しました。
抵抗感も無くなり
私も知らず知らずに受け入れてしまっていました。

私も何度も絶頂しました。
私のあそこは
すっかり圭介君の形になってしまったのかも
しれません。

そして、ひょっとしたら…

心の形までも…

疲れ果てた私は、

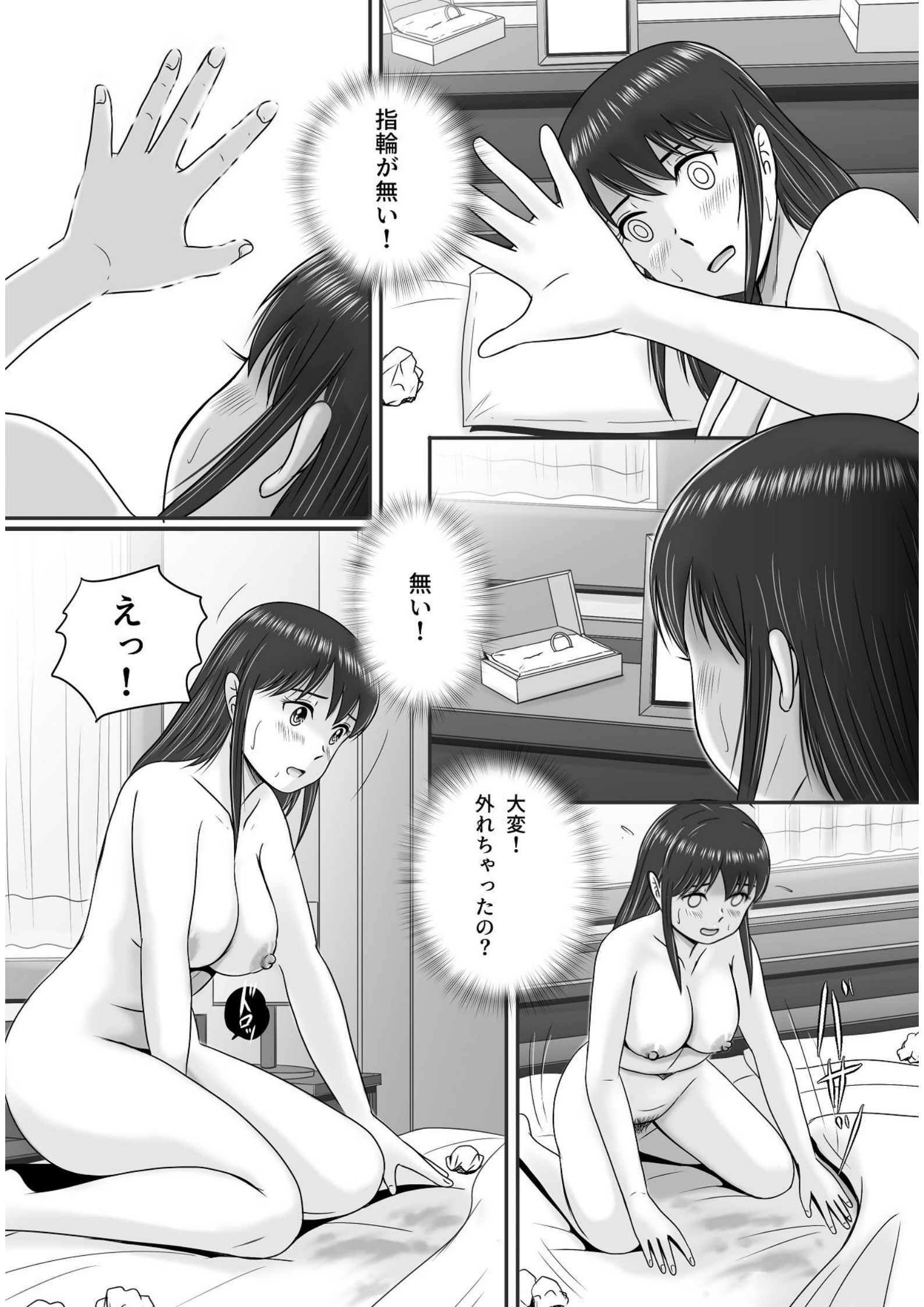
いつのまにか
眠ってしまいました。

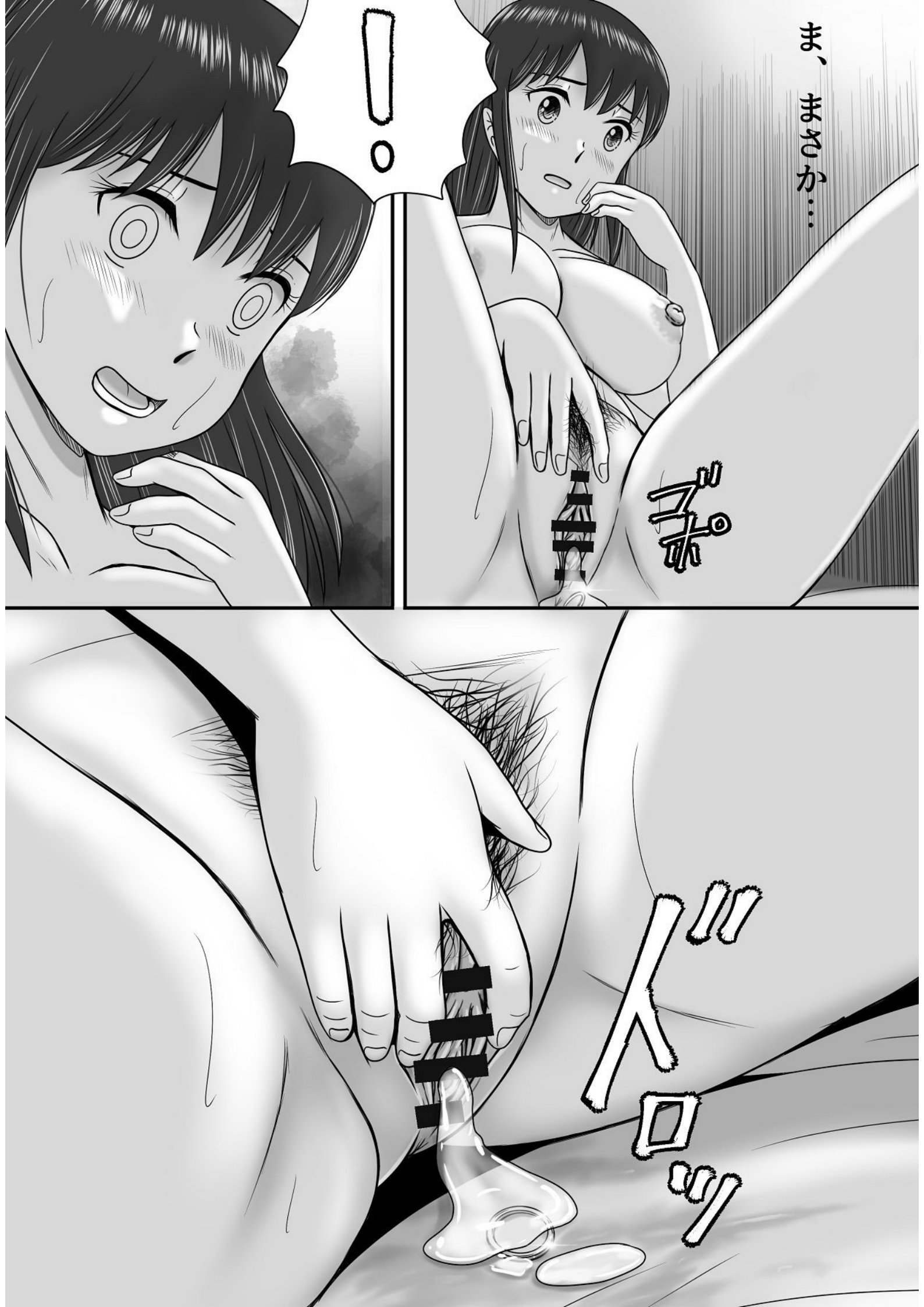
気づくと

ん…

朝になっていました。

んっ…


指輪が無い！
無い！
えっ！
大変！
外れちゃったの？
バロッ

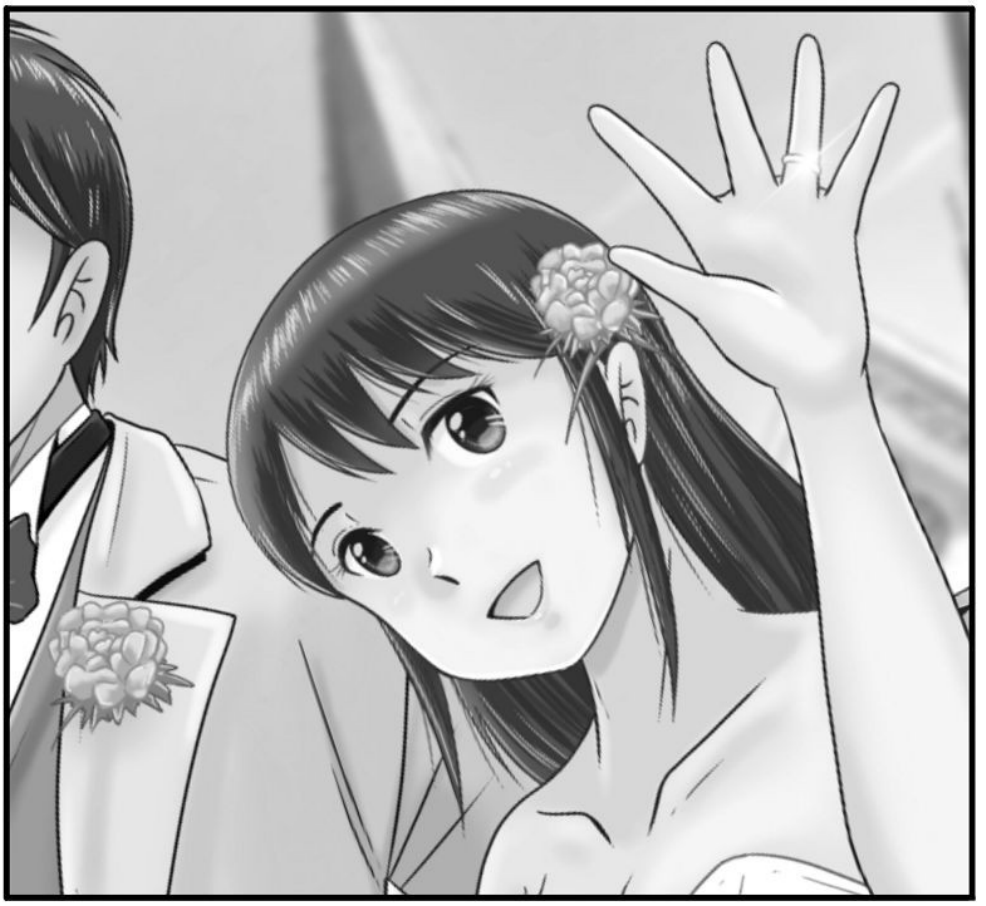

ま、まさか…
！？
ズボッ

数日後…
ピポパポ
ショップ・レストラン

皆様、
こちらはUDC航空
ロサンゼルス行き6789便の
優先搭乗案内でございます。

ただ今から、
小さなお子様をお連れのお客様や
特別なお手伝いを必要とされるお客様
に搭乗していただきます。

穂乃花…



末長く

幸せにな。

更に数日後、弘明の引越しの日…

穂乃花、俺の荷物何処に置けば良い？

とりあえずリビングに置いて～。

リビングって…

まずはソファをどかすか…

ズルッ

汚されたマリッジリング　完…

お買い上げ頂きましてありがとうございました。
次回作にもご期待ください！